

日韓の児童 一体感

テレビ会議システムで授業

藤井寺市立道明寺南小と韓国の翰林初等学校の六年生が十三日、最新の情報システムで「日韓合同授業」を行った。同小は国のIT（情報技術）推進校指定を受け、昨年六月には、テレビ会議システムで、サッカーW杯に出場した日本や韓国のチームの試合を翰林小と一緒に応援するなどした。

藤井寺・道明寺南小

今回は産業技術総合研究所（茨城県つくば市）と阪大などの協力で、一つの画面に双方の教室を映し、それぞれに設置したカメラの前で児童が互いに握手の格好をすれば、画面上で二人が握手しているように見えるシステムを利用した。

児童らは授業開始前、まず韓国の児童らと一人ずつ「握手」。抱きつくしぐさを見せる児童もおり、双方の教室で笑い声が上がった。

「家族」をテーマにした道徳の授業では、画面上で並んだ双方の児童が交互に家族の大切さを訴える作文を読むなどし、他の児童らが熱心にメモ。東美紀さん（11）は「韓国の友達と一つになっている気がして楽しかった」と話していた。



画面上で「握手」する道明寺南小の児童（右）と韓国の児童